

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

3頁 手話を交えての聖書に親しむ集い

4頁 各地区固有の課題・教区カトリック協議会

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601



みことばの観想

言葉の「コト」と、出来事の「コト」は同じです。

ギリシャ語のレーマは、出来事であります。言葉でもあります。

レーマは語られた言葉であると共に、生起する出来事でもあります。この点日本語も全く同じなのです。言葉の言と出来事の事は物事の本質(ココロ)を表すコトなのです。

信仰とは何か。言葉の中に(神の)言を聞くこと、出来事の中に(神の)コトを見ることです。

福音とは何か。福音音信の中に、神の音を聞くことなのです。観想とは何か。出来事の中にコトを聞き、言葉の中にコトを観る耳と目を持つことです。

神のみことばは、いのちの言葉。みことばは創造の力であり、救いの力、命と存在の力です。

御子は、人となつた神のみこたです。みことばを受け、聞き従う人は、神の命に生きるのです。

(写真は、ある観想修道会の聖堂内部です)

9
2002

共同宣教司牧司教訪問

京都南部地区・西ブロック

六月三十日（日）、桂教会において第二回京都南部地区西ブロック（九条・長岡・丹波・桂教会）共同宣教司牧評議会が、大塚司教様をお迎えして開かれ、四教会を中心総勢百九十二名の信徒が集つた。

評議会に先立つて、昨年策定された西ブロックビジョンにおける三つのポイント（宣教共同体・奉仕・社会）に基づき、①私達が宣教共同体になっていくために何が実行できたか（できていないか）、②奉仕しあう教会共同体となつて、いくために何が実行できたか、③社会に向けての福音宣教として何が実行できたかの三点について、「現状は?」、「今後の展望は?」、「その理由や根拠は?」と、それを聞き直し、それぞれの現状を認識しあう分かち合いを各教会の様々なグループで行つた。多くの分かち合いの結果が寄せられ、その結果を集約するとA四で四十枚近くになつた。集約結果を四教会で共有するのに、インターネットが大活躍した。

評議会は合同ミサで始まり、司

教様の講話へと続いた。「福音宣教では、「誰が」「何を」という点が大切」という言葉が印象に残る。四教会の子どもたちは、ホール和室で合同教会学校（工作）。そして共にテントで昼食…。

その後、各教会から分かち合いのまとめを発表する。数多くの意見を要約し、上記の三点と、特にその中から見えてきた各教会の課題・展望について報告された。レジュメが冊子の形で配布され、正面には各教会が準備した模造紙掲示で要点が示されたので、西ブロックの現状と課題がかなりはつきりと提示できたのではないかと思う。

西ブロックの現状と課題として、①奉仕者としての信徒、②子どもへの信仰教育、③典礼奉仕者の組織的育成と運営、④社会への奉仕、⑤ブロックとしての今後、⑥丹波教会二聖堂問題、の六つの点が見えてきた。抽象論ではなく、明日に向けて、具体的に「誰が、誰と、どこで、何を」開始するのかが鍵である。（桂教会委員 柴田記）

共同宣教司牧司教訪問

三重地区・北勢ブロック

「亀山を とぼとぼたどる 鈴鹿路を 四日の市に くわな蛤」

変な紹介から始めます。北勢地区にいくつの教会があるでしょう。

七月七日司教様を迎え、一堂に会して、ミサを行いました。

ミサこそ、教会共同体を表す、秘跡的姿です。秘跡とは、神と人間の出会いを表す恵みと一致のしるしです。

北勢地区の特徴は、滞日外国人、特にラテンアメリカ人（三重県に約二万二千人）の七五%が生活しておりおられるということであり、明らかに国際色ゆたかな地区であり、共同司牧を語る時、どうしても無視できないでしょう。

第二の特徴は、歴史的環境的背景が、共同宣教司牧の取り組みに

困難性をかかえていたコトも事実です。（これは司教様の厳しい指摘にもある通り、逃げる口実になつてはなりません）。しかしその不利な条件を少しずつ乗り越えようとの歩みが始まっています。共に出来ること（黙想会、回心式、秘跡講座、子供のキャンプ等）を通して、互いの顔が見える様にとの

努力が始まっています。

今回の集いは、まず集まって、一致の秘跡、教会共同体の場であり、しるしてもあるミサを通して、四教会の信徒と滞日外国人が一つであることを確かめたのです。

一つの共同体であることの確認が、まずみんなが参加出来る国際ミサにしたこと。又北勢ブロックで共同でやってきたことを報告す

ることを確認できたかも知れないと。（報告は本当は司教様によるものではなく、みんなに向かってするものなのですね）等。

今、共同宣教司牧の意味と意義をもっと深め、出来ることから始めてみてみのりを持つ無花果への期待を持つこと。「共同体はミサにだけにない、されどミサなり」





手話を交えての 聖書に親しむ集い

三重地区 伊勢教会 渡部宇多子

三重県では「手話を交えての聖書に親しむ集い」を始め、二〇〇〇年十二月十七日第一回目の集いを持ち、十五回目を重ねました。

その発端は、「聖書の勉強がしたいけれどどうしたらよいですか」と筆談で訴えた一人の聴覚障害を持つ方の言葉でした。神父様のお話が聞きたいのだなと感じました。

私も肢体不自由の障害者ですが杖と付き添いがあれば、割合自由に出来ます。この方の不自由さを理解し、この方の熱意は無視出来ないと思い、黙想会でお会いした森田神父様(以前、三重県の津教

会におられたこともあり)にご相談しました。そこで柳本神父様が三重県に赴任されることを知りました。手話のお出来になる神父様!すごいお恵みだと感謝しました。うれしかったです。

柳本神父様が正式に赴任されたのを待つて早くお願いしました。共同宣教司牧推進が目的で三重県

にお越しになり、教区の方にも業務が山積する中、「月一回位なら時間を作りましょう」と快諾を得、間もなく十五名の出席のもと第一回目が実現しました。日時 第三日曜日 十三時三十分から十五時頃迄

場所 津教会(三重県の中心に位置し交通の便利さを考え、津教会のご好意に甘えて)

指導者 柳本神父様

内 容 「聖書と典礼」の福音か

会 費 一ヶ月 二百円

以上を決めました。

その日の内容は

一、主の祈りを手話で教えて頂き、共に祈りました。

二、お話を待降節について

「山は低くなり谷は埋められ、曲がりくねった道は真っ直ぐに」。主は山や谷の向こうにおられ、私はいつも私達と共にいてくださいました。

柳本神父様はホワイトボードを駆使し、手話を交えて解り易く説明してくださいました。古い信者の私には殊更新鮮で印象深く心に残っています。

神父様はホワイトボードを駆使し、手話を交えて解り易く説明してくださいました。古い信者の私には殊更新鮮で印象深く心に残っています。

三、自己紹介 手話を交えて

四、お茶と交流会 初対面の方々とも温かくとけあい明るい雰囲気で散会しました。

以後、月一度 四日市・津・久居・松阪・伊勢の各教会から十名から十二名(内聴覚障害の方五名)が集まっています。障害の有無を問わず参加していただけています。

時々、教会の行事や都合があつて休む事もあります。

・年一回一泊しての黙想会を実施、昨年は五月十二・十三日でした。今年は九月二十一日・二十二日を計画中です。

・祝日にあわせて勉強会の前に御ミサをお願いしていきます。今年は四月二十一日御復活の御ミサを立てて頂きました。

・二〇〇一年十一月十八日には京都から障害者とボランティアの八名の方をお迎えし、合流して御ミ



さるイスマエル」主と私の間を遮っているものは何か。罪とか私の心を騒がせているものを取り除き、主を迎える準備をしよう。

神父様はホワイトボードを駆使し、手話を交えて解り易く説明してくださいました。古い信者の私には殊更新鮮で印象深く心に残っています。

こうして皆さんの特に津教会の方々の温かい協力をうけて、会を重ねてこられたことを感謝し、共に喜び、何よりもお忙しい中、ご指導下さる神父様に感謝します。

この集いが長く続くことと柳本神父様の健康とご活躍を祈り更に神父様ができるだけ長く三重県に留まってご指導くださることを願つて祈り続けます。

この集いが長く続くことと柳本神父様の健康とご活躍を祈り更に神父様ができるだけ長く三重県に留まってご指導くださることを願つて祈り続けます。

教区カトリック協議会

各地区固有の課題報告

六月二十九日（土）河原町会

館六階ホールで行われた第十三回カトリック京都司教区・教区カトリック協議会の内容を報告します。正式な議事録は各小教区・修道院に送付されます。

I. 各地区固有の課題報告

【三重地区】三重地区協議会（六月二日）に先立って各小教区ごとに話し合い、各ブロックでまとめたものを三点に絞った。

①滞日外国人との交わり。日常的な繋がりが強くなるにつれ、住居、保険、言葉、教育など経済的、社会的な協力が必要になってきた。今後、どのように対応していくのか。

②福音宣教共同体の理解と意識改革の結果としての具体的実践。各小教区レベルの奉仕活動をリーダーが呼びかけて広げていく。より大きな円になる共同体を作る。

③信仰の生涯養成。青少年の減少が顕著であり、親の信仰教育に多大な危機感をもつてている。

【奈良地区】

①同一宣教会の司牧であったこと、以前より合同イベントを開催してもらつた。協議会（六月二十三日）では三課題に絞りこめなかつたが、次のように集約した。

- ①福音を身近な人に伝える
- ②親しみと信頼に結ばれた教会を作る。
- ③社会的な弱者のために働く。

【京都北部地区】

常任委員会（五月二十六日）において六月二十三日の信徒大会に向けて課題作成計画した。しかし、教会に対する批判が先行して課題を見つけるところまで到らなかつた。大会テーマは「理想の教会を語る」とし、このテーマに関して実施したアンケートをまとめて冊子を作成した。自分の理想の教会を語ることで、課題が見出せると意図しているが、最終的に課題としてまとめる時間がなかつた。

【京都南部地区】

南部の四ブロックではそれぞれ話し合ってきたが、南部としての課題の提出はない。問題を検討するためには、何を変えていかなければならぬのかという共通の問題が見つけて欲しいと意図したものである。足りないところ、弱いところがあれば改めていく方向を自分達で求めて欲しい。したがって、話し合いをもつていただきたい。

今回の課題に対し、奈良地区の報告は地区の特色・弱点・固有の課題について宿題の意図を意識してまとめていただいた。滋賀地区

一した意見の集約を見ない。組織がついてきていないのに、問題点が出てくるわけがない。というのが京都南部地区的現状である。

【司教より】

前々回の協議会において、協議会で取組む課題に対して「宿題」という言葉をつかつたので、代表者のなかには何かをまとめて提出しなければいけない、と思われた方が多かつた。しかし、取組むべき課題は、むしろそのプロセスが大切にされるべきだ。昨年の協議会においては、共同宣教司牧を実現するためには福音、宣教、教会に対する共通理解が大切と考え、これらテーマに関して常に分かち合うことを推し進めた。固有の課題を見つけるという「宿題」は、自己反省と現状認識に基づいて地区ごとに優先的に取組むべき課題を見つけて欲しいと意図したものである。足りないところ、弱いところがあれば改めていく方向を自分達で求めて欲しい。したがって、話し合いをもつていただきたい。

区は多くの小教区のものをまとめることとは大変であったと思う。しかし、多くのものをまとめると非常に抽象的なものとなってしまうので、優先順位をつけるとか、重要なポイントに絞る、識別という努力が必要だ。三重地区も地区固有の課題に気づいて、取り組んでいこうという姿勢が読み取れる。滞日外国人が地区固有の非常に重要な課題であろうが、これは教区全体として取り組まなければ成らない非常に大きな課題である。青少年についても、地区の優先課題と判断されるなら、頑張って欲しい。京都北部は意見の集約に非常に苦心されておられるが、識別という意味を今一度考えて課題を見つけて欲しい。京都南部も同様なことが言えるのではないか。

II・共同宣教司牧ブロック司教訪問の中間報告

奈良南、三重南西、滋賀湖東ブロックは終了、明日は京都西ブロックである。これから訪問予定のブロック代表は早めにFr西野に場所、プログラムの内容を知らせてほしい。各ブロックは三～四の小教区があると思うが、それそれがどのように共同宣教司牧の歩みを評価しているのかが知りたい。皆の意

見の集約したものではなく、集約した意見を、責任もった立場の人々が識別し、自分達のブロックの足りているところ足りていないところを評価して欲しい。

III・「共同宣教司牧推進チーム」についての紹介と報告

【Fr西野】

◎推進チームの役割

①訪問のサポート、訪問先の資料、訪問までの準備の経過の把握、訪問後の評価と報告、②司祭評議会への諮問（司教を通じて）、③協議会などを通して情報の提供、④司教への答申

◎各地区での地区推進メンバーの役割

①地区長（三重Frネグリ、奈良Frタロク、滋賀Fr瀧野、京都北部Fr谷口、京都南部Fr東門）との話し合い、②他地区との情報交換

IV・議題Iを受け、教区協議会としての今後の取り組み

【司教】

各地区固有の問題と、それに対する取り組みの経過は適宜本協議会で報告してほしい。協議会では、報告されたものの中から教区として取組むことを見出す。

共同宣教司牧への取り組みは今後推進チームから出されてくる。

今年の十一月には司教訪問が終わるので、その後推進チームから提言が出される予定である。協議会ではこの提言されたことに対しても協議することになる。

質問（三重） 地区の協議会として、どのように推進チームと歩調をとつては、どう取り扱えばいいのか。

司教 共同宣教司牧の推進は、各プロックの担当司祭、または信徒や修道者を交えた、チームまたはプロック会議のような機関が責任を持つ。推進チームのメンバーは、各地区におけるモニターのとして、地区長（司祭）に進言し、地区長が地区協議会での検討に反映させることができる。チームメンバーが地区の情報収集のために協議会出席を求めた場合には、協力して欲しい。

質問（滋賀） 「識別」という言葉に関して、皆に分り易い表現でまとめていただきたい。

司教 推進チームで、いずれ、Frブルーノ・ロハス（司教総代理）Fr村上真理雄（議長）（本部事務局長）Fr北村善朗（オブザーバー）共同宣教司牧推進チームFr西野猛生（書記局）Sr吉國正子・小木曾弘子・奥本裕・湊路易欠席者：頃常順吉（滋賀協議会信徒代表）

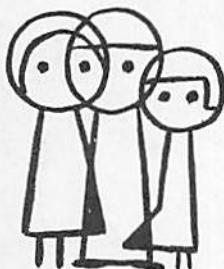
のか気になる。皆が良く分る形での情報の分ち合いの方法があればよいと考える。

次回は十月十九日（土）十四時

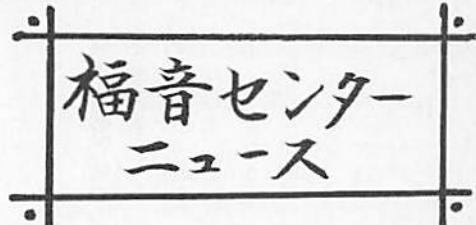
◆出席者【主宰者】大塚喜直司教
【三重代表】田平雅明・森茂巳・Sr安部カノ・Fr村上透磨【奈良代表】田尻浩二・友村忠司・Sr片岡八重子・Frキース【滋賀代表】高木康裕・Sr日朝子・Fr瀧野正三郎【京都北部代表】黒田正・浜口昇・関ワカ子・FrN・レザール【京都南部代表】角井義明・林達郎・Sr三宅さつき・Fr福岡一穂【福音センター】Fr外崎豊

【青年センタ】土岐仁美【PAGASAコミニティ】河野アメリア（清水アンドレア代理）【滝日ラテンアメリカ人司牧担当】Frブルーノ・ロハス（司教総代理）Fr村上真理雄（議長）（本部事務局長）Fr北村善朗（オブザーバー）共同宣教司牧推進チームFr西野猛生（書記局）Sr吉國正子・小木曾弘子・奥本裕・湊路易欠席者：頃常順吉（滋賀協議会信徒代表）

センター養成コース



共同宣教司牧の心を育む



祈りシリーズ

<沈黙の祈りへ>

教会の豊かな祈りの伝統の中から、今回は特に「沈黙の祈り」を取り上げます。沈黙の祈りは決して共同の祈り（典礼）と対立するものではなく、むしろ源泉となるものです。多数のご参加をお待ちしています。

日時：9月27日（金）、10月11日（金）

10月25日（金）、11月8日（金）

11月22日（金）、12月6日（金）

いずれも午後1：30～4：00

費用：3,000円（テキスト代含む）

〆切 9月20日（金）

自己発見シリーズ

わたしの かたわらにたち

わたしをみる 美しくみる

八木重吉

自分を知ることは神への道の第一歩です。

ほんものへの道を可能してくれるまなざし。
いろいろなしがらみや価値観で目がかすんでしまっています。

かたくなで小さく貧しくなっている自分自身を
温かくみつめ、かかわってみませんか。人への思
いやり優しさが引き出されてくるでしょう。

日時：10月10日（木）、10月24日（木）

10月31日（木）、11月7日（木）

いずれも午後1：30～4：00

費用：2,000円

〆切 10月1日（火）

会場 カトリック福音センター・1階ホール

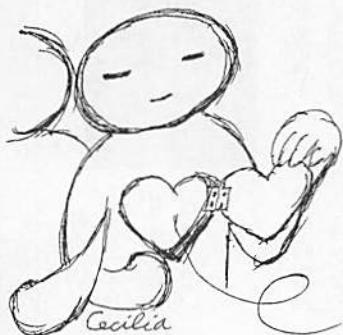
問い合わせ・申込先

郵便番号・住所・氏名・電話番号・コース名をご記入の上、

郵便振替口座（00920-4-161844 カトリック福音センター養成コース）へお振り込み下さい。

〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 西院カトリック会館内

Tel 075-822-7123 Fax 075-822-7020 Eメール fukuin@kyoto.catholic.jp



隣人を自分のように 愛しなさい

(マタイ22・39)

アダムとエバが食べてしまった「いかにもおいしそうで、目をひきつける」(創世記3・6)木の実は、わたしたちの周囲にも一杯なっています。そういえば、「禁断の木の実」などという言葉もありました。見た目に麗しく、心をそそのかす人・物・出来事が今の時代にはすぐそこに、手の届くところにたわわに実っています。

目が開けると…

ところで、木の実を食べた二人の「目は開け、自分たちが裸であることを知る」(3・7)ようになるのですが、この「裸の」というヘブライ語は、蛇につけられた「狡猾な」という言葉と同じだそうです。すると、木の実を食べた人間は、「神のようになる」どころか、神の前での自分たちの本当の姿、つまり貧しく、弱く、弱いがゆえに蛇のような狡猾な本来の姿を見たということになりましょうか。こうして人はお互いに警戒しあい、隠れるようになります。「敵」が生まれるのであります。

イエスが「隣人を自分のように愛しなさい」とおっしゃったとき、その隣人とは「敵」をも含むことは、よく知られた「善いサマリア人」のたとえにも表れています。律法学者やレビ人は、死んでいるかもしれない人に触れて汚れるのを恐れ、傷ついた人を避けて行ったのに対し、サマリア人は区別をつけません。彼にとっては、目の前で傷つき倒れている人が、自分たちと敵対しているかどうかなどにはおかまいなく、ただそこで苦しんでいるという事実だけが重要でした。けれどいっていいどうすれば「敵」を愛すなどいうことができるのでしょうか。

心の中の敵から解放されて

わたしたちの心の中には小さな無数の敵が潜んでいます。木の実をたくさん食べませんでしたか。敵を愛するには、まずわたしたちのうちのこの敵から解放されなければなりません。神様の前で、敵の正体を少しずつ見極め、心の虫干しをする必要があります。こうして心の中の蛇から徐々に解放されるにつれ、「行って、あなたも同じようにしなさい」というイエスの言葉にすぐさま応えられるようになるでしょう。善いサマリア人の姿には、イエスご自身の姿が重なります。イエスに従い、その言葉に応えるには、わたしたちはまず自分自身から解放されなければならないのです。自分からまったく解放されたとき、ひょっとするとあらゆる「隣人」は、もはや自分自身なのかもしれません。

わたしたちが今とり組んでいる共同宣教司牧は、一人ひとりの根本的な回心なしにはありえません。回心とは、常にイエスによって自分自身から解放され、イエスとともにかぎりなく「隣人」となっていく過程です。

聖書講座シリーズ「一〇〇匹の羊の群れ」5/22・23

神の国

ノートルダム・ド・ヴィ会員 伊従信子先生



「神の国」
はイエスの
中心的使信
となつてい
ます。

新約聖書ギリシャ語の直訳は
「神の王国」、神の王としての支配・
統治を意味します。キリストの説
く「神の国」の教えは、基本的に
は古代オリエントと旧約聖書にお
ける理想的王像の流れから理解す
れば、かなり正確に把握できると
思われます。

古代オリエントにおける王の理
想像は社会的秩序と大自然の秩序
にうがえます。社会秩序におい
ては捕虜を釈放し、病人を癒し、
貧しい者を助け、飢え渴む者に食
物を与える者、大自然の秩序につ
いては豊かな雨です。砂漠におけ
る雨の恵みは生命に直結していま
す。この二つの秩序には相関関係
があり、悪い王の時には社会秩序
が乱れ、大自然の秩序も乱れると
ます。「貧しい人は幸いである。

いう思想は旧約において神への信
仰を中心に修正されます。社会秩
序の乱れ（カインとアベルにみる
人間相互の憎み合い）、大自然の
秩序の乱れ（大洪水）は救いの歴
史の序曲、救いの必要性として創
世記1・十一に記されています。

神の王的支配の決定的な形は
「出エジプト」の出来事に見られ
ます。神はイスラエルの民を奴隸
状態から解放され、約束の地へ導
かれたと言う救いの基本の出来事
です。さらに、バビロン捕囚時代
にも同様に、囚われの身から解放
された民族体験は、旧約において
非常に大切な基盤となっています。
この体験はキリストが説く「神
の国」の準備となります。一つは
自力で救われえない、奴隸・捕虜
の解放は神の特別な介入なしにで
きない。第二に旧約の約束の地は、
新約において次元の異なる全く新
しい状態に変えられる。以上のこ
とはイエスの山上の説教に見られ
ます。

神の国はあなたたちのものである」
ルカ六・二十という神の国は、自
力では入れません。マルコ十・十
四に一層明確に表現されています。
「神の国は幼子たちのものである」
幼子は清浄無垢というより、無力
な存在、全く依存しないで生きら
れない者をここでは意味していま
す。当時神の律法を知らない幼児
は、神の国とは無関係でした。そ
の「幼子こそ神の国のもとのある」、
全く無償である神の救いと神の力
の働きが最も徹底して現れていま
す。神の国に入るのは私達の行い
によるのではなく、神の慈しみ・
無償の愛によります。神の王的支
配とは管理、コントロールを意味
する（ヨハネ十一・二十五と宣言
される）としてでした（マタイ十
二・二十八）。ラザロをよみがえ
らせた時「私は復活であり、命で
ある」としてました（マタイ十一
・二十五と宣言された）。

イエスは言葉と業（しるし）によ
って「神の国」を宣教されました。
神の国について「たとえ」で話
されました。「からし種」の話
ではマタイ十三・三十一、隠れて
いても神の国は発展していくます。
小さな種に宿る命を信じるなら、
神は介入されます。パン種がパン
全体を膨らすように、私達もパン
種として社会を変えていくことが
できるのです。イエスが奇跡を行
ったのは神の国の到来を告げ、神の
支配のしるし（サタン・罪・死へ
の勝利）としてでした（マタイ十
二・二十八）。ラザロをよみがえ
らせた時「私は復活であり、命で
ある」としてました（マタイ十一
・二十五と宣言された）。

神の愛が私達に注がれ、その愛によ
つて私達は生かされています。命の
おん子を遣わした父なる神の無償
の愛が私達に注がれ、その愛によ
つて私達は生かされています。命の
源と絆を絶つた罪人に命を与える
(ゆるし)、愛さずにいられないの
が神の介入・支配なのです。ここ
にへ救う神とへ救われる人間との
関係、関わりを生きる大切さ
があります。神は自ら人と共にい
て、その神（王）となる、一瞬一
瞬「命」と関わって生きる喜びは
キリストが説く福音（よきおとず
れ）なのです。

ここにちはシスター

マリアの娘—エスコラピアス
修道女会 四日市修道院

Sr 永本 紀美子(写真右から)
Sr カルメン バリエホ

Sr 岩間 尚子
Sr テレサ レサウン
Sr 久保 友子



マリアの娘—エスコラピアス修道女会は、幼児および青少年の教育を使命として、聖バウロ・モントンにより一八二九年、スペインに創立された修道会です。

当時裕福な家庭の子供達だけに許されていた教育の場を、一般的家庭に開放しました。

そして、キリスト教的全人教育

が、社会と教会にとって、緊急に必要であることを認識し、実行しました。「子供達に神の愛を教え、家族を救う」これが創立者のモットーです。

現在、世界二十カ国で八百人あまりの会員がスペインをはじめ、南米諸国、アフリカ、フィリピン、インド、日本等で活動しています。

日本には一九五一年、二人の姉妹が羽田に到着しました。現在、東京渋谷に管区本部を置き、東京、神奈川、埼玉、三重で幼稚園や女子学生寮、学校を通して宣教活動を行っており、他に、教会の日曜学校や子供達の練成会の指導、滞日外国人のお世話や援助等を行っております。

教皇ヨハネ・パウロII世が創立者を列聖した時、その列聖式において次のようにおっしゃいました。

「聖バウロ・モントルのメッセージは、現代のものであり、その教育のカリスマは、第三千年期の時代の要請における、インスピレーションの泉であります」と。

マリアの娘—エスコラピアス修道女会は、幼児および青少年の教育を使命として、聖バウロ・モントンにより一八二九年、スペインに創立された修道会です。

当時裕福な家庭の子供達だけに許されていた教育の場を、一般的家庭に開放しました。

そして、キリスト教的全人教育

福祉の窓

カトリック聖ヨゼフホーム

鶴舞保育園

鶴舞団地の一角に公立民営の保育園・鶴舞保育園が設立され

たのは一九六七年十月、大阪のベッドタウンとして開発された

この地で、奈良カトリック教会主任司祭、シドニー・ニュージェント神父様(社会福祉法人カトリック聖ヨゼフホーム・理事)に奈良市より民間の血の通った温かい保育をとの要請があり、鶴舞保育園の運営管理全般に関する依頼が寄せられました。以降今日に至っています。

初代園長はマリスト修道会、シドニー・ニュージェント神父様(現特養サンタマリア施設長)に続いて同修道会グリン・トニ神父様が一九九四年十一月他界されるまで園長として、子どもたちにとって保育園は何よりも楽しい場所として「楽しい保育」であります。

マリスモスの精神をもつて、明日の日の主役と呼ばれる子供たちや若者に福音の価値を伝える必要があることを自覚しております。



子どもたちと温かい笑顔で接していただき、子ども用のテープルを囲んでお食事をいただいたことなど、保育の場で貴重な体験をさせていただいた時の子どもたちの喜ぶ姿に一段と成長しました。顔がなつかしく思い出されます。

映画「愛の鉄道」は世界平和のためにその生涯をお捧げになり、特に日豪親善に貢献されたグリン・トニ神父様のドキュメンタリー映画として製作されました。私たちは保育の基本方針を歪めることなく、マリストの心を心として継承すること、家族の幸せと幼な児が人として育てられる最も安心の出来る環境であり続けるため研鑽努力をしなければならないと考えています。

お
知
ら
せ

村上透磨師

◆養成コース▼病人訪問コースII
いやされるかかわり 心の器づく

りー 21日(土) 14時~22日(日)
16時半 ウィチタ聖ヨゼフ修道会

竜安寺修道院 講師 沼野尚美氏
参加費一万六千円

◆青年センターから

◆YES2002(青年の集い)
28日(土)~29日(日) 奈良カト
リック野外礼拝センター

教区委員会から

◆聖書委員会▼聖書深読14日(土)
新井延和師 10時~16時 場所 河

原町会館6階 費用二千五百円
(昼食代を含む)、持参品 聖書・
筆記用具・ノート(お申込みは五

日前までに)▼聖書講座シリーズ
「一〇〇匹の羊の群れ—聖書に見
る福音宣教共同体—」4・5日国

井健宏師、11・12日シスター小久
保喜以子、18・19日高山貞美師、
25・26日シスター今道瑠子▼聖書

援講演会(三重カトリック協議会後
援) 16日(月) 三重県研宗館(ホー
ル) テーマ 「アッバ父よ」講師

◆衣笠教会▼チャリティバザー16

修道会から

◆京都女子カルメル会修道院(衣

笠)▼幼いイエスの聖テレーズ
「わたしはこの地上に生まれてか
らたくさん苦しみました」講演と
ミサ29日(日) 13時半 中川博道
師 問合せ電話 075(462)6764

地区協議会から

◆滋賀カトリック協議会▼例会22
日(日) 13時半 長浜教会

◆奈良カトリック協議会▼例会15
日(日) 14時 大和郡山教会▼正
義と平和奈良協議会▼フリートー
キング22日(日) 富雄教会▼ウォー
カソン23日(祝) 奈良教会 ミサ
9時半、出発10時半 奈良教会を
巡るコース

◆三重カトリック協議会▼例会22
日(日)

小教区から

ミサの変化について

ることになる。

時代、文化による異質性と教
会という同質性をどのように調
和させていくかという緊張感の
中でミサの様式や形式は変化し
てきたといえる。

神の民の礼拝をふさわしく祝
うため、様々な工夫が必要であ
ろう。しかしだの思いつきや
趣味で式文を変えたり、付け加
えたり省いたりしてはならない。
とつびな発想で面白けりやいい
というのは論外である。様式、
形式を決定することは教会全体
に委ねられたことであるが、具
体的な規定は司教團の権限の下
にある。その範囲内での工夫は
大きいに行つていけばよい。

それでも大切なことは、
どのような変化があるうと、ミ
サに与るのが自分たちの行つ
ている礼拝行為の意味合いを深
く知ることだ。やり方を教わっ
たらそのようにするというの
ではなく、なぜそのように礼拝す
るのかを学び深めていくことが
肝要である。ミサは単なるセレ
モニーではない。キリストの過
ぎ越しの記念である。それは毎
週巡つてくるけれども、常に一
度限りの最後の晚餐なのである。

もちろんミサの本質が変わ
るはずもない。変わっている
のはその様式や形式である。そ
してこの変化は時代と場所によ
る変化である。時代によって変
化するのは、礼拝行為がその時
代の人によく分かる形式を持つ
必要があるからであり、場所に
よって変わるのは、礼拝行為が
その土地の文化に根ざす必要が
あるからである。

とはいってもこの条件を完全
に徹底するなら、違いが強調さ
れるばかりで教会の共通のひと
つの礼拝行為という要素が薄れ
てしまう。つまり、時代が移り
変わったときに、全く異なる礼
拝が非連続的に付け足されたよ
うに感じたり、別の土地に行つ
て自国のミサとは全く違うミサ
に与っている印象を受けたりす

- ◆西院教会▼「妖怪の棲む教会」
講演会1日(日) 18時~19時半
大阪教区 中川 明師 西院教会
聖堂
- ◆京都コリアンカトリックセンター
▼韓国聖地巡礼の旅11月12日(火)
費用約九万円 問合せ電話075(841) 5964
- ◆教育関係施設から
ノートルダム女学院中学校高等
学校▼体育祭20日▼文化祭オープ
ンデー29日
- ◆聖母教育文化センター▼講演
「近畿のキリシタン遺跡を訪ねて―
四条畷・姫路・大和郡山・京都―」
8日(日) 13時 聖母学院 三俣
俊二先生 受講料 無料
- ◆暁星女子高等学校同窓会京都支
部▼いのち豊かにコンサート23日.
(祝) 13時半 河原町教会 入場
料二千円 問い合わせ 仲川07
44(22)6605
- ◆カトリックスカウト▼スカウト
サンデー15日(日) 場所 奈良
(日) 河原町会館六階ホール
- ◆京都カトリック混声合唱団▼練
習日8日(日) 14時、28日(土)
19時 河原町会館六階
- ◆京都キリスト研究会▼定例会
22日14時 河原町会館六階
第4、第5木曜日10時~12時
- ◆在世フランスコ会▼京都兄弟
会14日(土) 13時半フランスコ
の家▼フランススカンファミリー
研修会16日(月) 11時 嵐電四条
大宮駅改札口前 広隆寺、妙心寺
など
- ◆フランススカンズ・インター
ショナル・ジャパン関西支部▼例
会28日(土) 13時フランススコの
家
- ◆聖ビンセンシオ・ア・パウロ会
▼例会(河原町協議会) 15日(日)
13時半 河原町教会▼京都中央理
事会29日(日) 13時半 河原町教
会
- ◆糠みその会▼例会26日(木) 19
時45分 九条教会ホール
- ◆レジオ・マリエ▼コミニウム15
日(日) 13時半 河原町会館6階
ホール
- ◆「一万匹の蟻運動」基金報告
累計 三三、八七八、五七五円
(7月15日現在)

良書紹介

ガブリエル・バンサン

『アンジュール』

或る犬の物語
ブックローン社

この絵本は、大人のための絵
本かも知れません。

ある日、犬は、野の道を疾走
する車の窓から投げ捨てられる。
にわか野良犬となつた犬の一
日をたどって描く。

犬は車をとめたり、衝突事故
をおこしたり、町から追い払わ
れ、あきらめ、野から浜辺へ、
汀から道へ、地を嗅ぎながら、
うなだれて歩き、佇み、はつと
頭をあげて空にはえる。近景か
ら遠く小さく立つ犬へと画面を
移し、向こうむきは途方にくれ、
点だけで描く犬の姿は悲しみを
こぼし、振り向く犬は、こちら
へ訴えかける。

エンビツのデッサンで描くこ
の一つ一つの画面が、彷徨をた
どる人(犬ではない)の内奥を
あらわし、読む者の心に訴える。
やがて犬はひとりぼっちの子
供に出会う。ぱっと胸に灯がと
もつた様にあたたまり、最後は、
二人(子供と犬ではない、そう
二人)は、対面し、よりそ。

この本には、文字も文章もな
いが、この犬の表情(ほとんど
後ろ姿で示される)が私たちの
心に訴えかけてやまない。又犬
にして、上半身だけ描くその姿が、
少年の心を雄弁に訴えてやまな
い。

この絵本は、むしろ大人向け
の絵本なのかも知れない。これ
を子供が読んだら、何を語つて
くれるのだろう。聞いてみたい
と思われる本だ。

この本も解説しない方が良い
だろう。近代文明の環境の冷た
さや、その中の人々の孤独や、
心のふれあいがもたらす幸せや、
いろいろ感じる人がいるだろう
が、読んだ人、むしろ見た人の
感想こそ貴重だと思う。

ガブリエル・バンサンには、
「くまのアーネストおじさん」
シリーズの様にセレスティース
(小さいかわいい子ねずみ)の
心温まる生活・交わりを描いた
ものもある。これらはもう動物
の絵本ではなく、人間の交わり
を語りかける心の書なのです。

そして絵本は私の靈的読書。

大塚司教の

9月のスケジュール

- 1日(日)カナの会創立25年12時半
3日(火)青少年委員会14時
4日(水)中央協機構改革委員会15時

- 5日(木)中央協常任司教委員会10時

- 新聞チーム会議16時

- 8日(日)安曇川教会創立50周年記念ミサ14時

- 12日(木)~14日(土)東京カトリック神学院司教会議

- 15日(日)京都南部地区・南ブロック(伏見桃山八幡)共同宣教司牧司教訪問ミサと集会

- 19日(木)司教顧問会・責任役員会

- 10時司祭評議会常任委員会14時

- 22日(日)奈良地区・北部ブロック共同宣教司牧司教訪問ミサと集会

- 24日(火)~27日(金)諸宗教評議会アジアミーティング(韓国・スオノ)

- 28日(土)~10月1日(火)天理大学ボジョーム

29日(日)京都南部地区・東ブロック
ク共同宣教司牧司教訪問

問ミサと集会
青少年委員会18時



青年センター主催行事

『YES2002』

この度、京都カトリック青年センターよりでは、来る九月二十八日(土)~二十九日(日)に

『YES2002』と題しまして青年の集いを奈良のカトリック野外礼拝センターにて開催致します。既に、各小教区には、ポスター・案内をお送りしていますので、ご存知かもしれません

が、更にこの文面にて、案内させていただきたいと思います。この『YES』とは、「Y」

◎キリスト教は、案外専門用語が多いのではないかと思います。分かり易いことばの必要性を感じています。(YT)

◎あっという間の一年でした。そして、新しいことにチャレンジ、ワクワクしています。これからもよろしく、お願ひいたします。

(月)

◆編集部から

お知らせに載せたい情報は、

月号でしたら9月16日までに、

12月11日

月号でしたら10月14日までに、

FAXまたはEメールアドレス

henshu@kyoto.catholic.jp

にお願いします。

ちミサを中心に行います。

この青年の集いで、青年たちが出会い、交流を深め、また新たな何かを感じ取っていただけるような場を提供していきたいと考えています。

そしてただ今、この集いに参加していただける青年を募集致しております。お申込み方法は、

氏名・性別・職業・年齢・住所(〒)・電話・アドレス(ある方)・所属教会をご記入の上、Fax、E-mail、H.P.の申込み画面からお申込みください。その他、詳しい内容は、各小教区、青年センターのホームページに掲載していますので、ご覧くださいませ。

その他、ご質問等ございましては、青年センターまで、お気軽にお問い合わせくださいます。ようお願い致します。

それでは、たくさんの青年の皆様が来られることを楽しみにしております。

青年センター

電話075-822-6246
FAX075-812-6685
E-mail
seinen@kyoto.catholic.jp

されました「WYDトロント大会の報告会」と全国の青年の有志によって行われる「あつちこ」

HP
<http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>